

第 38 回国際経済協力セミナー

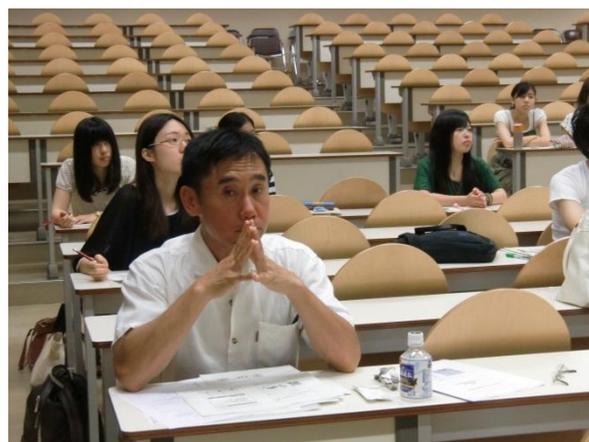
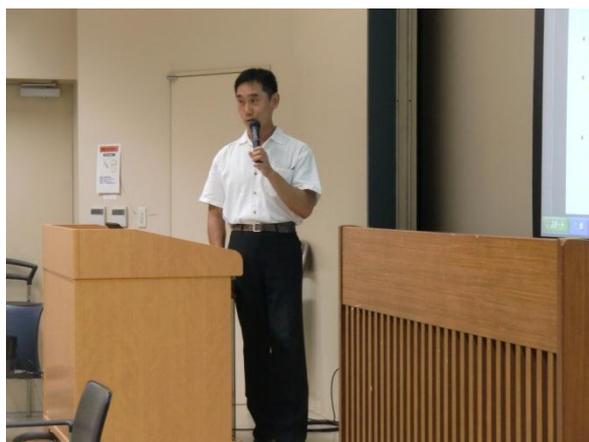
アフガニスタンの過去と将来

講演者：岩間 敏之氏

国際協力機構 アフガニスタン国カブール首都圏開発事務所長

文責：永井哲平

草案作成：日下・所・島崎



講演者である、岩間氏は 1987 年に国際協力事業団（現国際協力機構：JICA）に入団し、2001 年には国際協力事業団エジプト事務長、2004 年には英国事務長などを務めた。2010 年 11 月からは、今回の講演会のタイトルである、アフガニスタン国カブール首都圏開発プロジェクトに事務所長として携わっている。

アフガニスタンの地勢

アフガニスタンは内陸国で北側には旧ソ連の国があり、東側には中国・インド・パキスタンそして西側にはイランと、とても政治的に「濃い」国に囲まれている。シルクロードが通っていたということもあり、文明の十字路となっている。そのためアフガニスタンは多民族国家となっている。国土は約 67 万平方キロ、人口約 3000 万人（2007 年国連調査）であり、そのうち 70%は地方に居住している。主な宗教はイスラム教（スンニー派 74%、シーア派 25%）、気候としては乾燥地帯に位置しており、首都カブールは標高 1800m、年間降雨量 300mm である。

戦略的パートナーシップ

戦略的パートナーシップとは安全保障、経済、人権などについての相互理解と協力を求めるものである。しかし、アフガニスタンでは具体的な協定を 2 国間で結んでいないためアメリカ、イギリス、中国、ロシアやドイツなど多くの国と一応は締結しているものの、アフガニスタンにおける戦略的パートナーシップはとても不安定なものとなっている。

NATO 撤退後の治安維持

シカゴでの NATO サミットにおいて、年間 41 億ドルのアフガニスタン治安維持の予算が承認された。アメリカがその半分を担うと決まったが、残り半分の負担者がすべては決まっていないなどの問題がまだある。そのためアフガニスタンの国民は「結局アメリカが自己都合でこの国に戦争を仕掛けて占領し、自己都合で出て行くのさ。ソ連のやり方と全く同じだ。」と嘆いている。

撤退も簡単ではない

現在アフガニスタンには 13 万人の国際治安維持部隊(ISAF)が配備されている。2014 年までの 2 年間で一部を除いて彼らを全員撤退させなければいけない。ISAF を構成する米軍だけでも 10 万 個のコンテナ輸送が必要になると予想されている。アフガニスタンからの撤退の主なルートは隣国パキスタン経由なのだが、パキスタン側は英国に対し 20 億ドルの通過料を提示している。また、今までにカナダ軍は貨物の 25%がパキスタン通過中に紛失した。米国は、ビンラディンの殺害やパキスタン軍基地への誤爆によりパキスタンと最悪の関係にあり、パキスタン側はパキスタン・アフガニスタン国境を閉鎖し、開放したければ 10 億ドルの援助を要求している。このため、現在アフガニスタンはカザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタンとのトランジット協定を審議中だが、こちらのルートの輸送コストはパキスタンルートに 6 倍かかる上に、全長 3 キロものトンネルは整備されておらず、トンネル内の換気不足から一酸化炭素発生や冬には雪崩が起こるなど大変危険な状態にある。またトラック運転手の話によると 12 時間ごとに方向が変わる一方通行のために渋滞は 10 キロ続き、トンネル通過には 12 日もかかるとのことで、安定した撤退ルートが確保されていない。

アフガニスタンの不安要因(外部要因)

アフガニスタンと国境を接している反米国家のイラン、パキスタンにとってアフガニスタンが米国と戦略的パートナーシップ条約を結び、親米国家になることは最大の脅威である。イランはこの戦略的パートナーシップ条約の議会批准阻止に、アフガニスタンの国会議員 1 人あたり 5,000~1 万ドルでの批准阻止を持ちかけていると新聞で報道されたが、結局下院 159 対 6、上院 67 対 13 の大差で可決された。アフガニスタンとパキスタンの国境デュランドラインは英国が勝手に引いたものであるため、パシュトゥーン人がアフガニスタンでも多数を占める事になってしまい、多民族国家となるアフガニスタンとパシュトゥーン人の分断国家が形成されてしまった。このためパシュトゥーン人の遊牧民は国境を超えて行き来するため武器や物質の運搬に絡んでいる可能性が大きいとされている。パキスタンは全面否定しているがパキスタンとアフガニスタンの反政府勢力との関係は今年のビンラディン殺害によってより濃厚とアメリカは指摘している。アフガニスタンがインドと友好関係

を結ぶことはパキスタンが敵に完全に包囲されることになりパキスタンにとって致命的である。要するにパキスタンはアフガニスタンを安定させたくない。

アフガニスタンの不安定要因(内部要因)

現在のアフガニスタンは、いわば刀狩りも太閤検地もまだ行われていない状態であるため、土地の強奪などがあり資産形成ができない。また過去 30 年にわたる戦禍により国際関係や道徳を学ぶ機会がなかったことが地方部での識字率の低さに繋がっていて結果的に力と金がものをいう社会となってしまっている。現在年間 95 トンの麻薬がアフガニスタンから中央アジアに密輸されており、先進国の市場へ流れている。NATO 撤退に伴う資金不足によって麻薬が主な資金源となり、麻薬ビジネスの拡大に繋がるのではないかと懸念されている。

アフガニスタンにおける風刺画

アフガニスタン現地では、様々な風刺絵が描かれている。米軍が撤退するとパキスタンからタリバンが流れ込んでくることを風刺したものや、反米感情やサウジアラビアの資金がタリバンを生み出すことを表したタリバン大量製造機の絵、巨額の支援でも多くの NGO 団体を経由した結果ほんの少しの額にしかならないことを表したもの、パキスタン軍諜報組織 ISI が偽のタリバンをパキスタン北部に配置して治安が不安定だと見せかけ、NATO からの支援をわざと受けていることを風刺したものなどがある。

学生との質疑応答

Q. 岩間さんの話の中で、「風刺画のように経済援助のためのお金はその組織の幹部やその下に付いている部下などによって搾取されていることがある」ということおっしゃっていたが、実際に体験されたことはありますか？

A. 実際に体験したことはないが、大きな組織になるほどその傾向が強くなっていき最終的に搾取されて現地には微々たる支援しか出来ていない現状がある。

今回の講演では、アフガニスタンを取り巻く状況が丁寧に説明された。被援助国の現状を踏まえながら、的確な援助への第一歩ではないだろうか。本講演を通して、日本の開発援助という観点から、われわれが今後援助政策を考える上での視点の一つが学生に提示された。